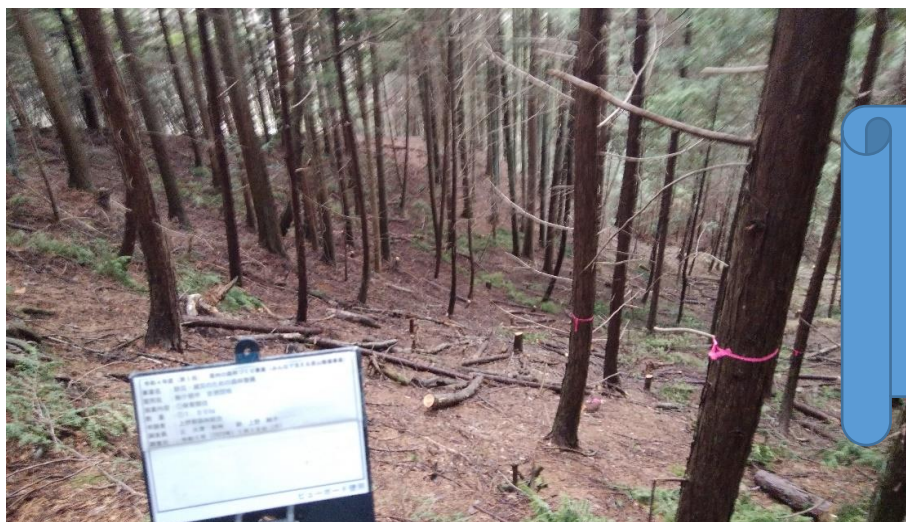


令和4年度 森林づくり県民税活用事業 上伊那地域の事例

- 1 里山整備（防災・減災、県民協働）
- 2 ライフライン等保全対策
- 3 県民協働による里山の整備・利用
- 4 子どもの居場所の木質化・木のおもちゃの整備
- 5 木づかい空間整備
- 6 木工体験活動支援
- 7 観光地等魅力向上森林景観整備
- 8 森林づくり県民税のPR

1 みんなで支える里山整備



【防災・減災】

駒ヶ根市吉瀬

保育間伐

【県民協働】

伊那市ますみヶ丘

更新伐



【県民協働】

伊那市上山田

修景林間整備



1 里山整備 (防災減災緊急治山)



伊那市高遠町板山

山火事跡地の危険木処理



2 ライフライン等保全対策



中川村桑原

道路沿線の危険木伐採



3 県民協働による里山の整備・利用



飯島町南駒ヶ岳

住民参加の森林整備

※2年前に植栽したモミノキ(将来の御柱用材を目指して)の下刈り



辰野町さわそこ

里山資源の利用

※地域住民が参加してシイタケを栽培

4 木のおもちゃの整備



伊那市

NPO法人フリーキッズ
ビレッジ

※キューブと滑り台



伊那市

小鳩園

※木の下駄箱



宮田村

こうめ保育園

※トンネルボックス



箕輪町

松島保育園

※平均台

5 子どもの居場所の木質化

メールアドレスまだ
伊那市
NPO法人フリーキッズビレッジ
※おやまのおうち
問い合わせ内容をお聞かせください。

子どもと家族みんなのリトリートハウス『おやまのおうち』

非営利団体

ホーム 基本データ イベント 写真 その他

情報

すべて見る

〒396-0304 Nagano伊那市高遠町山室1539

信州高遠の自然豊かな山里で子どもと家族のリトリートハウス『おやまのおうち』を創っています。

200人が「いいね！」しました

243人がフォロー中です

<https://www.freekids.jp/>

0265-94-5028

oyamanoouchi@freekids.jp

非営利団体

写真

すべて見る

非営利団体

写真

すべて見る

子どもと家族みんなのリトリートハウス『おやまのおうち』

2時間

おやまのおうちに遊べる木の空間ができました☆

同じ山室に住む、下鳥大ちゃんの力を大きく借りて、木の温もり感じる遊べる空間になりました☆

山室の栗の木を木をはく所から、木登りできる自然木が部屋の中に！

隙間風だらけだった天井・壁に2階の床を、格子状にして、下からでも人の様子がわかるようにしています。この上に絨毯やマットを引いても使えます。この格子状の床にロープやブランコを吊るしたり、子どもたちの作ったものを飾ったり、スラックラインを張ったり・・・

2階は秘密の隠れ家になりそう。漫画コーナーになるかなあ☆

3つのキューブ上の移動式の台を組み替えて、登って遊んだり、滑り台をつけて遊ぶ

固定の決められた遊びでなくて、一緒に空間・おもちゃを作り、遊びも作っていきけるような物作りをしています☆

これから、漆喰塗りや、栗の木を磨く、たな作りなど・・・子ども達とつくっていきます

ぜひ、遊びに、作りにお越しくださいね♪

*「子どもの居場所」木質空間整備事業で作らせていただきました☆「長野県森林づくり県民税」を活用し、「子どもの居場所」で県産材を利活用する事業に対し、費用の一部を補助していただきました

+4件

6 木工体験活動支援



伊那市

伊那保育園(保護者
会)

※森林体験と木工作

伊那市

手良小学校(建設労
連)

※トンカチ教室



南箕輪村

上伊那農業高校

※経木のランタン製作
展示

辰野町

辰野町(町内保育園)

※木工作



7 観光地等魅力向上森林景観整備

駒ヶ根市

駒ヶ根高原



8 森林づくり県民税のPR



未来へつなぐ 森が育む豊かな心 ～長野県森林づくり県民税活用事例紹介～

長野県では2008年度から、県民みんなで、信州の豊かな森林づくりを支える仕組みとして「森林づくり県民税（森林税）」が導入されています。

上伊那地域では同税を活用した里山整備のほか、木育の推進や学校林の整備も行われています。

「長野県森林づくり県民税（森林税）」とは、県土の約8割を占める森林を適切に手入れし、健全な姿で次世代に引き継ぐための仕組み。2008年度に導入され、県民1人あたり年間500円を納税しています。

当初から行われている里山整備に加え、現在は教育や観光といった多面的な森林活用にも用途が広がり、さまざまな取り組みに幅広く生かされています。

本年度末に3期目(2018～22年度)の課税期間が終わりですが、阿部守一知事は、来年度から5年間も継続する方針を表明しています。

問・上伊那地域振興局林務課 ☎0265・76・6823

学 校林「ゆめやま広場」を修繕 [辰野町]



9月中旬、生活科の授業で初めて学校林を訪れた1年生26人。急斜面の滑り台や特製のプランコ、葉やドングリ拾い、虫捕りなどを楽しみ、お尻は真っ黒に、今後は木の実を使った工作など他教科とも結びつけながら「発想力や想像力、元気いっぱい心の心と体を育みたい」と担任の牛山沙映さん

子どもたちに、自然体験を
用いています。

辰野町は昨年、森林づくり県民税を活用して辰野東小の学校林「ゆめやま広場」の修繕整備を行いました。

同学校林は、同町平出の中央道辰野パーキングエリア東側に広がる約0.8畝。学校から徒歩で約10分の場所にあり、児童たちが年間を通してさまざまな学びや自然体験に利用されています。

開設したのは2003年、ちょうど前年に、完全学校週5日制と総合的な学習の時間が導入されるなど「体験を通して生きる力の育成」が教育の重点課題とされた頃。子どもたちが身近に自然と触れ合える場所が失われていたことを危惧した保護者らが、学校林設置を求めた。



修繕された階段

山林の整備はこれまで20年近くPTAや児童らが手作業で行ってきたが、多くの児童が上り下りした階段は壊れ、林内には危険な木もみられるようになった。県の補助を受け、このほど初めて地元の実業者が整備を依頼。伐採木の搬出など大掛かりな作業も短期に終わることができ、保護者の負担も軽減できました」と町学校教育係長の翠川俊一さん。

かつて学校林は、木材などの収益を校舎の増築費用にあてられて、多くの学校が財産として所有していました。しかし林業が衰退した近年は児童減少による学校の統廃合などもあり、維持に苦慮する学校が少なくありません。

一方で、辰野東小の事例のように教育フィールドとしての需要は高まっていることから、県は時代の一歩に合わせ、学校林近くにトイレを設置した休憩場所となるベンチを購入する学校から離れた場合は交通手段を確保するなどの整備も森林税の用途に入れています。また、地域と連携した体制づくりについても支援を続けていきます。

保 育園に木製家具を導入 [箕輪町]



箕輪町は昨年度、森林づくり県民税を活用して町内7カ所の保育園に木製の調度品やおもちゃを導入。各園で今年4月から使用しています。

このうち、0～6歳児200人余りが通う同町松島の松島保育園には、手荷物やおもちゃなどを置く整理棚4台と、高さ約40センチの丸テーブル6台が配備されました。

主に未満児クラスの教室に置いた丸テーブルは、地元元工務店による特製で、乳児がつかまり立ちして遊

「いっしょに、おままごとしてあげよう」。朝から元気な声が響く保育園の一室。その中央に置かれた木製の丸テーブルに、子どもたちが次々と集まっています。

「このうち、0～6歳児200人余りが通う同町松島の松島保育園には、手荷物やおもちゃなどを置く整理棚4台と、高さ約40センチの丸テーブル6台が配備されました。主に未満児クラスの教室に置いた丸テーブルは、地元元工務店による特製で、乳児がつかまり立ちして遊

木のぬくもりが運ぶ笑顔

んだい、絵本を読んだりするのちよつといい高さ。やわらかな杉材の天板は、角が全て取られていて、丸いフォルムや天然木の色味も安心感を与えます。

同園では数年前から、未満児の子どもたちが遊ぶ中庭にも県産材のテーブルとベンチを設置しており「木には、子どもたちが自然と集まって使いたくなる、そんな温かみがあるのだと思います」と保育士。

同町では、各園の園舎の木造・木質化を進めているほか、身近な自然環境を保育の場として取り入れる「信州やまほい」にも積極的に取り組んでいます。

同町子ども未来課の市川廣幸さんは「毎日の生活の中に地元の木を取り入れることで、子どもたちの五感に働きかけ、豊かな感性を育みたい。それが地域の良さとして心に残り、故郷への愛着につながればうれしいです」と話しています。



中庭に置かれた木のテーブルも子どもたちに人気の遊び場